㊙

昭和十年十一月

「天皇」、「皇帝」ナル御稱呼ニ關スル資料

外務省條約局第一課

REEL No. A-0584

0204

アジア歴史資料センター

「天皇」、「皇帝」ナル御稱呼ニ關スル資料

目次　頁

第一節　大政奉還ニ至ル迄　一
第一、古文書ニ現ハレタル天皇ノ御稱呼　一
第二、「皇帝華夷所稱」ノ解釋　二
第三、武家政治時代ヨリ大政奉還迄　三
第二節　大政奉還以後　四
第一、實例　四
一、條約　四
二、御批准書　一一
三、對外勅書　一二
四、前記以外ノ對外文書　一三
五、國内法令等　一五
第二、條約其ノ他對外文書ニ於テ「皇帝」ナル御稱呼ガ用ヒラルルニ至リタル事情　一六

REEL No. A-0584
0205
アジア歴史資料センター

第二　憲法發布以後尙對外文書中ニ「皇帝」ナル御稱呼ガ用ヒラルル事情　二七

(附)　參考資料　三二

REEL No. A-0584

0206

アジア歴史資料センター

第一節　大政奉還ニ至ル迄

第一、古文書ニ現ハレタル天皇ノ御稱呼

「天皇」ハ古クハ須米良伎(スベラギ)、須賣良伎(スメラギ)、須賣漏岐(スメロギ)、須明樂美御德(スメラミコト)、皇御孫命(スメミマノミコト)等ト稱セラレタリ

古事記ニハ神代ノ巻ニ「天皇命」トアリ日本書紀ニハ「神日本磐余彦天皇」トアル處此等ハ記紀ニ於ケル御追稱ニシテ當時ニ於ケル御稱呼トハ謂フ能ハズ

稍下リテ推古天皇ノ御宇ニ至リ「天皇」ナル御稱呼文獻中ニ散見シ就中夫ノ小野妹子ガ再ビ隋ニ遣サレシ時ノ國書ニ「天皇」ナル御稱呼アルコトハ國史ニ著名ナル事實ナリ

要之大寶元年（皇紀一三六一年）頃迄ノ文獻ニ依レバ「天皇」ナル御稱呼ノミアリテ「皇帝」ナル御稱呼ヲ用ヒラレタル例ナキガ如シ然ルニ大寶律令（養老律令）ノ儀制令ニハ「皇帝華夷所稱」云々（後述二、及參考資料參照）トアリ

REEL No. A-0584
0207
アジア歴史資料センター

大寶元年以來各種ノ文獻ニ依レバ「天皇」ノ外ニ「皇帝」ナル御稱呼用ヒラレタリ

例ヘバ「古事記」ノ序、「續日本紀」、「三代實錄」、「朝野群載」等ニ於テ「皇帝」ナル御稱呼アリ（此等各種文獻ニ就テハ參考資料參照）

而シテ此等ノ諸例ヲ綜合シテ惟フニ此ノ時代ニ於テハ　天皇ノ御稱呼ハ文獻ノ教フル所ニ依レバ「天皇」「皇帝」ノ二ツナガラ混用セラレ居リタルモノナリ

第二、大寶令儀制令ニ「皇帝華夷所稱」トアル處其ノ意義ニ付テハ

(一)華夷ニ對シテ及華夷ヨリ稱スルノ意ナリトスル說ト華夷ヨリノミ稱スルノ意ナリトスル說トノ二アリ即チ

(イ)公權的註解書タル令義解ニハ「言ク王者詔語於華夷、稱皇帝。即華夷之所稱亦依之也。」トアリ（又令集解ニモ「釋云。、、、謂宣告華夷。通因此號耳。、、、跡云。、、、皇帝。謂華

夷。若有可註御名之事者用此名。」トアリ）

(ロ)然ルニ荷田在滿ノ「皇帝義解」ニハ「在滿案、皇帝之字華夷之所稱也。有詔之時、猶可稱天皇、至句中者稱朕、故公式令詔書式皆用天皇字也、非自稱皇帝、此義解誤也」トアリ

(二)次ニ華夷ノ意義ニ付テモ令義解ニ「華華夏也。夷夷狄也。」トアル處

(イ)「華」ヲ自國、「夷」ヲ外國ノ意ト解スルモノ

(ロ)「華」ヲ支那、夷ヲ夫以外ノ外國ト解シ從テ「華夷」ヲ單ニ外國ノ意ニ解スルモノノ二アリ

第三 武家政治時代ヲ經テ、開國後大政奉還迄ノ條約ニ於テモ將軍ハ「大君」ト稱シテ其ノ締結者タルガ如クナリシヲ以テ　天皇ノ御稱呼ハ「ミカド」トシテ外交文書ニ散見スルノミナリ

REEL No. A-0584
0209
アジア歴史資料センター

第二節　大政奉還以後

大政奉還以後ノ文書ニ就キ我國元首ノ御稱呼ヲ檢スレバ左ノ如シ

第一　實例

一、條約

明治元年（慶應四年）一月十五日兵庫ニ於テ勅使擬テ各國公使ト應接アリタル節　天皇ヨリ各國ヘノ御布告ヲ手交シタリ其ノ宣旨ニハ

「日本國天皇告諸外國帝王及其臣人嚮者將軍德川慶喜請歸政權也制允之內外政事親裁之乃曰從前條約用大君名稱自今而後當換以天皇稱而諸國交接之職專命有司等各國公使諒知斯旨

慶應四年正月十日　御諱」

トアリ爾來明治四年迄ノ諸條約ニ現レタル御稱呼ハ右御布告ノ通「天皇」ト記載セラレタルモ明治六年以後ハ一般ニ「皇帝」トセラレタリ右兩者ノ實例左ノ如シ（條約名ハ適宜略稱等ヲ用フ）

○明治元年日瑞諸修好通商航海條約

「日本天皇」

○同　年日西修好通商航海條約

「大日本天皇陛下」

○明治二年日獨修好通商航海條約

「日本　天皇陛下」

○同　年日澳洪修好通商航海條約

「日本　天皇陛下」

○明治四年日布修好通商條約

（七月四日調印）

「大日本國　天皇陛下」

○明治六年日祕間「マリヤ、ルーヅ」船事件ニ付締盟國君主ヘ裁判依頼スベキ約定

（六月十九日調印）

REEL No. A-0584

0211

アジア歴史資料センター

「日本皇帝陛下ノ」

○同　年「マリヤ、ルーヅ」船事件ニ付露國皇帝へ裁決ヲ依頼スベキ約定

「日本皇帝陛下」ノ

○明治六年日秘和親貿易航海假條約

（八月二十一日調印）

「日本國　大皇帝」

○明治八年日米兩國間郵便税前拂ノ條約

（署名ノ箇所ニ）

「日本天皇陛下ノ」

○同 明治八年日露樺太千島交換條約

「大日本國皇帝陛下」

但シ附屬公文ニハ「日本國皇帝陛下」ノトアリ

○同　年同條約附錄

REEL No. A-0584

0212

アジア歴史資料センター

「日本皇帝陛下」

○明治十一年日米間現存條約中或箇條ヲ改定シ且兩國ノ通商ヲ增進スル爲メノ約書

「日本國　皇帝陛下」

○明治十三年日米難破船費用償還約定

「日本國皇帝陛下」

○明治十五年日露官報電信料減額取極書

「日本皇帝陛下」

（右ハ來翰譯文ニシテ往翰譯文ニハ「日本國皇帝陛下」トアリ）

○明治十七年日佛間郵便爲替條約

「日本皇帝陛下」

○明治十八年日鮮漢城條約

「大日本國　大皇帝」

REEL No. A-0584
0213
アジア歴史資料センター

8

○明治十九年日布渡航條約
「日本皇帝陛下」
○同　年日米犯罪人引渡條約
「日本國皇帝陛下」
○明治二十年日暹修好通商ニ關スル宣言
「日本皇帝陛下」
○明治二十一年日墨修好通商條約
「日本皇帝陛下」
○明治二十二年日米和親通商航海條約
（二月二十日調印）
「日本國皇帝陛下」
但シ附屬文書ニ於テハ「日本國皇帝陛下ノ」、「日本皇帝陛下ノ」及「皇帝陛下ノ」ノ三者混用セラレアリ

REEL No. A-0584
0214
アジア歴史資料センター

○同　　年日獨和親通商航海條約

（六月十一日調印）

「日本國皇帝陛下」

○同　　年日露和親通商航海條約

（八月八日調印）

「日本國皇帝陛下」

但シ附屬文書ニ於テハ「日本國皇帝陛下ノ」、「日本皇帝陛下ノ」及「帝國皇帝陛下」ノ三者混用セラレアリ

（右日米、日獨、日露ノ三條約ハ所謂大畷條約ニシテ御批准ヲ見ルニ至ラズシテ了レルモノナリ）

因ニ明治四年十二月二日附太政官達ニ「外國條約書體別紙之通御定相成候條此旨相達候事」トアリテ其ノ別紙ニ「大日本國天皇」トアリ次ノ二ニ記載ノ如ク翌三日御批准アリタル日墺洪條約ノ御

REEL No. A-0584
0215
アジア歴史資料センター

批准書ニハ「大日本天皇」トセラレ又前記明治四年七月四日ノ日布修好通商條約ニモ「大日本國　天皇陛下」ト記サレタルニ拘ラズ其ノ後ノ條約ニ於テハ「皇帝」ナル御稱呼ヲ用ヒラレタリ

右ノ如ク此ノ達ノ通リセラレザリシハ後記第二ニ述ブルガ如ク明治二年ヨリ同四年ニ亘リ我方ト各國使臣及清國トノ間ニ外國元首稱呼問題ノ論爭アリ遂ニ明治五年十一月十九日（草案作成ノ日ハ六年一月廿九日、後記第一ノ三參照）ノ國書ニ「大日本國大皇帝敢テ大清國大皇帝ニ白ス」ト記セラレ爾後此ノ例ニ依ルニ至レルガ為メナルベシ

REEL No. A-0584

0216

アジア歴史資料センター

二、御批准書

明治二年九月九日御批准ノ同年日獨條約、明治三年二月二十三日御批准ノ明治元年日西條約、明治三年十月二十八日御批准ノ明治元年日瑞諾條約及明治四年七月四日調印竝ニ御批准ノ日布條約ノ各御批准書ニハ孰レモ尊號ノ掲記ナク（單ニ「朕カ委任全權ノ重臣」トアリ）、明治四年十二月三日御批准ノ明治二年日澳洪條約御批准書ニ至リ初メテ「大日本天皇」ナル尊號掲載セラレタリ明治六年三月九日御批准ノ明治四年日清修好條規ニアリテハ上諭ヲ以テ御批准文ニ代ヘラレタルニ付尊號ヲ見ズ、亦明治七年二月七日御批准ノ明治六年日米郵便交換條約御批准書ニモ尊號ナク（單ニ「朕」トアリ）、明治八年五月十三日御批准ノ明治六年日秘和親航海假條約御批准書ニ至リ「日本皇帝」トアリ爾來明治八年六月十五日御批准ノ同年日米郵便稅前拂ノ條約及翌九年三月三十一日御批准ノ同年日米郵便遞加條約ノ御批准書ニ尊號ノ掲記ナキヲ除キ

REEL No. A-0584

0217

アジア歴史資料センター

テハ「皇帝」ノ尊稱ヲ用キラレテ今日ニ及ベリ

三 對外勅書

次ニ御批准書以外ノ對外勅書ニ就テ檢スルニ明治二年九月十五日
附澳洪國皇帝宛「勅答書」ニ「日本天皇」トアリ爾後明治五年五
月十四日附英國皇帝宛寺島大辨務使ニ對スル御信任狀ニ至ル迄「
天皇」ノ尊稱ヲ用キラレタルガ同年十一月十九日附淸國皇帝宛「
國書」（副島外務卿ニ對スル批准書交換全權御信任狀）ニ至リテ
初メテ「大日本國大皇帝」ト稱セラレタリ
尤モ明治六年一月五日附ノ伊國皇帝宛中山總領事御信任狀ニハ尙
「日本國天皇」トアリ右ハ舊慣尙幾分ノ惰勢ヲ存シタルヤニ思ハ
レシガ更ニ此ノ間ノ事由ニ付精査スルニ卽チ前記淸國皇帝宛國書
案ニ際スル副島外務卿ヨリ太政大臣宛御允可奏請ノ文ニ「御國書
案進呈候條卽御聖鑑御伺之上早々御謄淸有之度此段申上候也 明
治六年一月九日」トアリ卽チ右國書ハ明治五年十一月十九日ノ日

REEL No. A-0584
0218
アジア歴史資料センター

附ヲ有スルニ拘ラズ其ノ實際ニ作成セラレタルハ實ニ明治六年一月九日ニシテ前記一月五日ノ御信任狀ニ後ルルコト四日タリシナリ

故ニ對清帝「國書」ノ日附上ハ明治五年十一月十九日ヨリ「皇帝」ト稱セラレタルモノナルモ實際ハ明治六年一月九日ヨリ實現シタルモノト看ルベク同月二十日ノ伊國皇帝宛慶賀ノ勅書ニモ「日本國皇帝」ト記載セラレタリ

四　前記以外ノ對外文書

前記ノ條約、御批准書及對外勅書以外ノ對外文書ニ在リテハ其ノ實例左ノ如クニシテ「天皇」及「皇帝」ナル御稱呼ハ互ニ混用セラレタリ

○明治元年正月二十日二品親王ヨリ各國公使ヘノ通牒　「今般天皇自ラ條約被取結候ニ付而ハ以來是迄之通之條約總而遵守可致旨蒙勅命候、、、」

REEL No. A-0584

0219

アジア歴史資料センター

○同年三月十七日附二品親王ヨリ英國公使宛書翰　「我等　皇。帝。ヨリ受海陸軍大總督之命、、、」

○同年五月二日附肥前侍從ヨリ英、佛、米、蘭、孛、（伊）以六公使宛書翰　「皇。帝陛下ヨリ下徳川慶喜へ申渡書、、、」

○同年五月十三日山階宮ヨリ蘭、英、伊、佛、米、孛公使へ達セラレシ書翰　「然ハ我　皇。帝。徳川慶喜征服、、、」

○同年五月二十六日東久世中將ヨリ各國公使宛書翰　「皇。帝。陛下ヨリ、、、」

○同年十月二十六日外國知官事伊達中納言等ヨリ各國公使宛書翰　「我　天。皇。ニ於テモ、、、」

○同年十月二十七日附神奈川府判事寺島陶藏等ヨリ瑞西臨時總領事宛書翰　「我　天。皇。ニ於テモ、、、」

○同年十一月四日附外國知官事伊達中納言ヨリ各國公使宛書翰　「我　皇。帝。陛下之政事一途ニ歸シ、、、」

REEL No. A-0584
0220
アジア歴史資料センター

「一我　皇帝陛下之政權ヲ一統ニ歸シ、、、」

○同年十一月四日附外國副知官事伊達中納言ヨリ各國公使宛書翰

[illegible]「一我、天皇ニ於テ、、、」

○同年十一月二十七日附[illegible]

[illegible]

○同年十二月[illegible]

[illegible]

○同年五月二十六日[illegible]

[illegible]

○同年五月十三日[illegible]

[illegible]

○同年五月[illegible]

[illegible]

○同年三月十七日附[illegible]英國公使宛書翰[illegible]

○同年十一月三十日附外國副知官事東久世中將ヨリ各國公使宛書翰

「然ハ　天。皇陛下、、、」

○同年十二月十三日附外國官判事山口範藏ヨリ英佛各公使代理宛書翰

「右　皇。帝。政府長官、、、」

二、國內法令等

次ニ維新以後ノ國內法令ニ就イテ之ヲ見ルニ明治二十一年勅令第二十四號參軍官制第一條及同年勅令第二十七號師團司令部條例第一條ニ於テ「皇帝陛下」ナル尊稱ノ用キラレタルヲ見ルモ明治二十二年二月十一日憲法發布後ハ其ノ跡ヲ絕テリ

尙法令以外ニ於テハ宣戰ノ詔勅及勛記ニ「皇帝」ナル御稱呼ガ用キラルルヲ例トセリ

REEL No. A-0584

0221

アジア歴史資料センター

第二　條約其ノ他對外文書ニ於テ「皇帝」ナル御稱呼ガ用ヒラルルニ至リタル事情

右第一ニ記述シタルガ如ク明治元年ニ於テ從前ノ條約ニハ「大君」ノ名稱ヲ用ヒタルモ自今「天皇」ノ稱ヲ以テ之ニ代フベキ旨ヲ仰セ出サレタルニ拘ラズ明治六年以後ハ條約其ノ他ノ對外文書ニ於テ「皇帝」ナル御稱呼ガ用ヒラルルニ至リタル次第ナルガ今其ノ間ノ事情ヲ調査スルニ右ハ明治初年ニ於テ外國君主ノ稱呼ニ關シ帝國政府ト在本邦各國使臣トノ間ニ種々紛議ヲ生ジ更ニ明治四年日清修好條規締結ノ際「天皇」ナル御稱呼ニ付日清間ニ論議アリ其ノ結果當時ノ政府ニ於テ對外文書ニハ「皇帝」トスルヲ可ナリト認メタルガ爲ナルガ如シ

仍テ茲ニ右外國使臣及支那ト我方トノ間ニ於ケル紛議ノ次第ヲ記述スベシ（外務省記錄ニ依ル）

(1) 在本邦外國使臣トノ紛議ハ明治二年一月三十日三條右大臣ヨリ孛、

[illegible]

蘭、伊ノ「執政」宛書翰中ニ彼國君主ヲ「國王」殿下ト書シタルニ「皇帝」トセザレバトテ受領セザリシニ端ヲ發シ

(2) 同年十月二十七日附ヲ以テ澤外務卿ヨリ英、佛、孛各公使宛ニ「皇帝」ナル御稱呼ハ支那ノ文字ニテ穩當ナラザルニ付各其ノ國ニ於ケル敬稱ヲ用フル方至當ナリトテ其ノ國語及我片假名ニテ示サレ度旨申送レルニ對シ各公使等ヨリ不同意（白ノミハ贊成）ノ回答アリ（(6)、參照）

(3) 英公使ハ同年一月十日ノ日獨條約ニ「皇帝」ノ稱呼用ヒラレタル故ヲ以テ從來ノ「女王殿下」ナル稱呼ニ不服ヲ唱ヘタリ

(4) 翌三年三月十五日英水師提督參朝ノ節勅語ニ英國皇帝トセズシテ「帝王」ナル稱呼ヲ用ヒラレタリトテ玉座前ニテ論駁ヲ加ヘ、因テ澤外務卿謹愼ノ事件アリ

(5) 右ノ如ク外國君主稱呼ノ義ハ相當煩シキ問題トナレルヲ以テ同三年四月十二日、和蘭國王ヘノ御返書ニ於ケル同國君主ノ稱呼認メ

REEL No. A-0584
0223
アジア歴史資料センター

方ニ就キ澤外務卿獨公使ト應接アリ

我方ハ各國ノ原音ニ從ヒ片假名ニテ示スコトヲ提言セルニ獨公使不同意ノ旨ヲ述ベ、我方ハ「皇帝」トスルトキハ弱小國ニモ之ヲ用ヒザルヲ得ザルヲ以テ不穩當ナリ又尊稱ハ條約ニ從フベク之ト異ナルモノヲ用フルトキハ物議ヲ釀ス虞アリ從テ各國ト協議ヲ要スト主張シタルニ對シ彼ハ獨立國君主ハ一律同等ノ交際アルベキコト又條約ノ內容ニ關セザルモノナレバ一方的ニ變改シテ差支ナキコト等ヲ力說シテ解決セズ

(6)更ニ同年六月十八日澤外務卿ト英、米、佛、獨、蘭及西公使トノ間ニ應接アリ

是ヨリ先六月五日三條右大臣ト澤外務卿トノ間ニ談議アリ澤外務卿ハ右談議ニ於テ左ノ二段ノ對策ヲ立テテ各國公使トノ應接ニ臨メルモノノ如シ

第一案　我　天皇ハ主明樂美御德（スメラミコト）ト書シ各國君主ニハ其ノ國々ニ

[illegible]

テ稱スル所ノ原語ニ從フコト

第二案　右行ハレ難キトキハ「天皇」ハ我國ノミ稱スベク外國君主ニハ「皇帝」ヲ用フルコト、但シ「天皇」ハ我國ノミ稱スルコトハ含ミオクベキコト其ノ理由ハ彼モ亦「天皇」ト稱スルトキハ我ニ於テ應ジ難ク紛糾起ルベキヲ以テナリ

而シテ玆ニ注意スベキハ外務省トシテハ右二案ノ外第三案トモ云フベキモノヲ用意シタルコト是ナリ即チ右三條右大臣澤外務卿問答ヲ記シタルモノノ末段ニ「今述ル處ノ外務省ノ論委細書付可被差出樣致度候」トアリ右「外務省ノ論」ト推定セラルベキ資料ニハ前記二案ニ就キ述ベタル後曰ク「モシ又彼方ニモ一層御國ノ事情相辨ヘ來和文御用御座候上ハ總テ御國ノ稱呼ニ從度杯申張彼我トモ天皇ト稱度旨申出間敷トモ難申其場合ニ至リ候テハ平行御交際ノ御趣旨御座候上ハ皇帝、天皇ノ字ヲ爭執致兼候樣成行終ニ不都合ニモ可相成歟就テハ大宝令中、、、ト有之華夷トハ漢土及

REEL No. A-0584
0225
アジア歴史資料センター

諸外國ヲ稱候名義ノ趣御座候間　天皇トハ御國內臨馭ノ上ニ奉稱候義外國エ被爲對候テハ皇帝ト被爲唱候本文ニモ有之候間寧ロ彼我共皇帝ノ稱呼ヲ用候事ニ致シ不適當トモ不被存候間前後ノ二論ニテ行居兼候上ハ結末ノ處ニテ談決候樣可仕候可然御指揮有之度存候此段相伺候也」

澤外務卿ハ右ノ如キ對策ヲ立テタル後各國使臣トノ應接ニ臨ミタルガ其ノ應接ニ於テ我方ハ「皇帝」ノ文字ハ支那ノ文字ヲ以テ譯當シタルモノナレバ不穩當ナルニ付我國ハ顯津神(アキツカミ)天皇(スメラミコト)ト稱シ各其ノ國々ニテ敬稱シ居ル稱呼ヲ用フルコトト爲シタク依テ尊稱敬語トモ各其ノ國々ノ語ヲ我片假名ニテ認メタキ旨提言セル處各公使ハ舊來用ヒ來レル「皇帝陛下」ナル語ハ假令支那文字ナリトモ已ニ萬國ニ流通セルノ故改定セザルヲ可トスト主張シ殊ニ佛ハ「皇帝」ノ字ニ異論アラバ兩國對等ノ理ヲ推シテ佛帝ニモ「天皇」ノ

REEL No. A-0584

0226

アジア歴史資料センター

稱ヲ用ヒラレタキ旨強ク主張セリ仍テ我方ハ「天皇」ナル御稱呼ハ我國皇道ノ關スル所ニシテ固有ノ意味アルコト「羅馬法王」ノ如シ佛帝ヲ稱スルニ字義異ナレル「法王」ヲ以テシテ可ナルカト駁スル所アリ即チ佛公使理アリトシテ其ノ主張ヲ止メタルガ結局各公使ハ(一)日本語ニトリテ意味モナキ歐洲ノ稱呼ヲ片假名ニテ認メ難シ(二)獨立國ノ君主ハ一律對等ノ交際ナレバ相手國君主ヲ稱呼スルニハ自國ノ君主ヲ尊稱スル稱呼ヲ以テスベシトノ理由ヨリ我主張ヲ容認セズ決スル所ナカリキ

(7) 其ノ後我方ヨリ各國公使ト一時ニ應接スルトキハ議論紛糾條理徹底シ難キニ付公使總代ト協議シタキ旨申入レタル處孛ハ之ニ贊シタルモ佛、英ハ之以上論議ヲ重ヌルヲ欲セズ書翰ニテ取極メタシト主張セリ仍テ三年七月十三日各公使へ各國君主上下優劣ナキ趣ノ處右ニ付何等カ約書アラバ承知シ度旨我方ヨリ照會シタルニ同月二十四日英、佛、蘭、獨、伊公使連名ニテ右ハ約書ニアラズ萬國ノ禮式確法ニ依リテ然ル旨回答シ越セリ

REEL No. A-0584

0227

アジア歴史資料センター

而シテ右照復ノ後約三ケ月即チ明治三年十月二十八日ニ御批准ノ明治元年日瑞諾修好通商航海條約御批准書ニハ既ニ「前ニ朕カ委任全權ノ重臣ト瑞典國　大皇帝ノ委任アラレシ我國在留荷蘭公使ト、、、」トアリ右ハ當局ニ於テ前記公文往復ノ結果第二案實行ニ決シタルヲ證スルモノト謂フベシ

尚明治四年七月四日調印竝ニ御批准ノ日布修好通商航海條約ニモ「大日本國天皇陛下ト布哇諸島　皇帝陛下、、、」トアリ又同御批准書ニモ「今般朕カ委任全權之重臣ト布哇國大皇帝之全權公使ト、、、」ト記識セラレ、更ニ同年正院ヨリノ問合ニ對シ十月二十五日附ヲ以テ外務省ヨリ

「御國書御書体ノ義御問合承知イタシ候各國帝王ノ敬稱陛下ト書候テハ臣下ガ稱候義ニ付大皇帝ト認且朕ハ下ェ對シ候語ニ付矢張リ余ト御認ノ方適當ト被存候此段及御答候也」

ト回答シタル次第アリ

察スルニ當時ニ於ケル我政府ノ意圖ハ三條右大臣澤外務卿ノ協議ニ依リ既ニ確定シ居リ即チ第一案ノ各國原稱（我ハ「主明樂美御德」）ニ依ルコトヲ先方不承諾ノ場合ハ第二案ノ「皇帝」（我ハ「天皇」）ヲ用フルコトニ決定シ居リタルコトナレバ今ヤ第一案ニ對スル先方ノ意思明瞭ナル上ハ第二案ニ依ルノ外ナカルベク且第二案ノ「皇帝」ヲ用フルニ就テ政府ガ躊躇シタル主タル理由ハ弱小國君主ニ之ヲ用フルヲ不穏當ト認メタル點ニアリタル處已ニ此ノ點ニ付前記各公使連名ノ回答アリタル次第ナレバ玆ニ外國君主ノ稱呼ヲ「皇帝」トスルコトニ決シタルモノナルベシ

(8)次ニ日清間ノ論議ハ明治四年日清修好條規締結ノ際ノコトニシテ問題ハ前記ノ通「天皇」ナル稱呼ニ就テナリ即チ支那側ハ「天皇」ナル稱呼ハ支那ニ於テハ神聖ノ極古來聖帝名王ト雖モ敢テ使用シ居ラザルノ故ヲ以テ我「天皇」ト竝ベテ彼國「皇帝」ヲ掲グルヲ肯ンゼズ竟ニ條約文首ニ尊號ヲ掲ゲザルコトニ決着シ、唯國書

REEL No. A-0584
0229
アジア歴史資料センター

以下公文往復ニ於テ我方「天皇」ノ御稱呼ヲ用フルニ對シ彼方ヨリ我　天皇ヲ稱フルニ執レヲ以テスルカハ決セザルモ不敬ノ字ヲ用ヒバ返却スベシトノコトニ諒解成レル經緯アリタルガ翌五年十一月十九日ノ國書（草案作成ノ日ハ翌六年一月九日ナルコト前記第一ノ三ニ記載ノ通）ニ於テハ「大日本國大皇帝。敬テ大清國大皇帝ニ白ス」トセラレ茲ニ始メテ我國元首ノ御稱呼モ「皇帝」トセラルルニ至レリ

惟フニ右日清修好條規締結當時ノ經緯ニ觀ルモ偶々支那ガ同文ノ國ナルニ因リ稱呼問題ノ解決ハ一層困難且切實ナルモノアリシナラン卽チ我國書ニ「天皇」トナストキハ彼之ヲ喜バザルハ明ニシテ李鴻章ハ我ヨリノ書翰ニ「天皇」ト書スルハ勿論彼是言フコトナキモ復書ニ執レヲ用フルカハ彼（李）ノ權ニテ定ムルコト能ハズト云ヒタレバ若シ先方モ「天皇」ト稱シ來ラバ如何センカ斯クテハ各國公使

REEL No. A-0584

0230

アジア歴史資料センター

ニ對シ「天皇」ナル御稱呼ガ我邦固有ノモノナレバトテ相手方ノ使用ヲ拒ミシ事ト撞着スベク而モ支那ニ對スル限リ「天皇」固有論ハ絶對不通ノ論タルナリ（尤モ支那人ノ「天皇」ニ對スル觀念上又已ニ條約文首ニ尊號ヲ掲ゲザリシ事實モアルコトナレバ先方ガ「天皇」ヲ用フルコトハ恐ラク無カランモ萬一ノ場合我方之ヲ拒ムノ理由ニ乏シ）少クモ「天皇」ノ稱ヲ用フル限リ今後支那トノ條約ニ元首ノ尊號ヲ掲グルコト能ハザル不便アルコトハ已ニ實證濟ナリ斯クテ當局者ノ胸裡ニ漸ク熟シ來リツツアリシ前記第三案ハ右對清國書ヲ契機トシテ已ムナクモ實現ノ運ビトナレルモノト推測セラル

要之前記(7)ニ云ヘルガ如ク支那以外ノ諸國トノ間ニ於ケル君主稱呼ノ問題ハ所謂第二案ヲ以テ一應解決シタルガ如シト雖モ之ニ從ヒ獨リ我方ノミ「天皇」ナル御稱呼ヲ用ヒントスルモ支那ニ於テモ「天皇」ト稱シ得ルコトガ右諸外國ノ知ル所トナラバ右第二案主張ノ節論據トシタル所ハ最早不通ノコトトナルベク旁々此等諸國トノ關係ヨ

REEL No. A-0584

0231

アジア歴史資料センター

リスルモ將又同文國タル清韓兩國トノ關係ヨリ見ルモ根本的解決ハ矢張リ我モ亦對外的ニハ「皇帝」ナル御稱呼ヲ用フルニアラズンバ期シ難シトノ念恐ラク前記紛議ニ懲リシ當時ノ政府ノ腦裡ニ強ク印象セラレタル所ナルベシ

尚外國君主ノ稱呼ニ關シテハ其後明治七年五月ニ至リ横濱稅關長星亨ヨリ英國領事宛書翰ノ和譯文中「女王」ノ文字アリタルニ付テ英國公使ヨリ帝國政府ニ抗議ヲ申越セル事件アリ同年七月二十五日太政官達第九十八號ヲ以テ締盟國君主ハ總テ「皇帝」ト稱スベキ旨達セラレタリ（但シ右達ハ大正十年勅令第三十八號ヲ以テ廢止セラレタリ）

REEL No. A-0584
0232
アジア歴史資料センター

第三　憲法發布以後尙對外文書中ニ「皇帝」ナル御稱呼ガ用ヒラルル事情

以上ノ如キ經緯アリテ對外文書ニ於テハ外國君主ノ稱呼トシテノミナラズ我國元首ヲ稱シ奉ルニモ亦「皇帝」ナル語ガ用ヒラルルニ至リシ次第ナルガ明治二十二年二月十一日ニ憲法發布ノ御事アリ其ノ第一條等ニ於テ我國元首ニ關シテハ「天皇」ナル御稱呼ガ用ヒラレタル結果外務省トシテハ從前外交文書ニ「皇帝」ナル御稱呼ヲ用ヒ來レル關係上之ヲ如何ニ處置スベキカノ問題起リタルモノノ如ク遂ニ別紙甲號ノ如ク同年四月二十四日樞密院ニ對シ「天皇」ノ文字ト「皇帝」ノ文字トノ差別等ニ關スル照會ヲ發スルニ至リ之ニ對シ五月八日樞密院ヨリ別紙乙號ノ通外務省ヘ囘答アリ嗣今法文中ニハ總テ「天皇」ノ尊稱ヲ用ヒラルベキハ當然ナルモ外國交際ノ文書ハ之ヲ除ク旨ノ囘答アリ是ニ於テ外務省トシテハ憲法ノ規定ニ拘ラス對外文書ニハ依然「皇帝」ナル御稱呼ヲ用フルコトトシ爾來今日ニ至

REEL No. A-0584
0233
アジア歴史資料センター

[illegible]

ル迄數十年ノ長キニ亘ル慣行ヲ成スニ至レルモノニシテ外務省關係ニ於テノミナラズ宮內省ノ如キモ亦其ノ起草スル御親書等ノ中ニ「皇帝」ノ御稱呼ヲ用フルノ常例トナリタルモノナリ

REEL No. A-0584
0234
アジア歴史資料センター

29

〔別紙〕

（甲號） 樞密院外務省照會

親展送第二八六號

憲法明文中ニ記載アル天皇ノ文字ト他ノ公文ニ記載スル皇帝ノ文字ト差別如何竝ニ皇位皇室ノ皇字ト帝國憲法帝國議會等ノ帝字トノ區分如何ニ係ル解釋承知致度候間乍御手數御開示相成候樣致度此段及御依賴候也

明治二十二年四月二十四日

外務次官子爵青木周藏

樞密院書記官長 井上毅殿

REEL No. A-0584
0235
アジア歴史資料センター

（乙號）外務省宛樞密院回答

客月二十四日附送第二八六號貴問ノ趣本院議長ノ指揮ヲ受ケ左ニ開答供參考候

第一問　皇帝ノ稱呼ハ大寶令（公式及儀制）ニ天子、天皇、皇帝云々トアリテ天子祭祀所稱、天皇詔書所稱、皇帝華夷所稱、トアリ蓋皇帝トハ外國ニ對シテ稱ヘラルルノ尊稱タルハ中古ノ典例タリシニ近來ハ他ノ法文中ニモ往々皇帝ノ稱ヲ用キラレタルコト見エタリ即チ二十一年勅令第二十四號參軍官制第一條同年第二十七號師團司令部條例第一條是ナリ

皇室典範及憲法ニ天皇ノ稱ヲ用キラレタルハ先王ノ遺範ニ因ラレタルモノニシテ既ニ一定ノ制ヲ成サレタレハ嗣今法文ニハ總テ天皇ノ尊稱ヲ用キラルヘキハ當然ナルヘシ（但外國交際ノ文書ヲ除ク）

第二問　皇ノ字ト帝ノ字トハ之ヲ古典及維新以後ノ慣例ニ徴スル

ニ更ニ區別アルヲ見ズ

明治二十二年五月八日

樞密院書記官長　井上毅

外務次官子爵　青木周藏殿

REEL No. A-0584

0237

アジア歴史資料センター

参考資料

REEL No. A-0584

0238

アジア歴史資料センター

一、「天皇」ハ古クハ「須米良伎（スベラギ）」、「須賣良伎（スメラギ）」、「須賣漏岐（スメロギ）」、「須明樂美御德（スメラミコト）」、「皇御孫命（スメミマノミコト）」等ト稱セラレタリ「統治」ヲ意味スルニ出デタルモノトス

古事記（元明天皇和銅五年（紀一三七二年）成ル）ニハ遠ク神代ノ巻（邇々藝命ノ條）ニ「天皇命（スメラミコト）」トアリ日本書紀（元正天皇養老四年（紀一三八〇年）成ル）ニハ神日本磐余彦天皇（カムヤマトイハアレヒコノスメラミコト）（神武天皇）ヨリ既ニ此ノ語ヲ用ヒラレタルヲ見ルモ之ハ記紀ニ於テ後ノ御追稱ヲ用ヒタルモノニシテ古キ當時ノ御稱呼トハ謂フ能ハズ尚日本書紀仲哀天皇九年（紀八六〇年）十月ノ條ニ「新羅王、、曰、吾聞東ニ有神國、謂日本、亦有聖王、謂天皇（スメラミコト）」又欽明天皇九年（紀一二〇八年）四月ノ條ニ「百済、、、奏曰、、、伏願（シ）ク可畏（カシコキ）天皇。西蕃皆稱日本天皇、爲可畏天皇」トアルモ當時ニ於テモ我國ニ「天皇」ナル御稱呼ガ存在シタリヤハ尚未ダ定カナラズ

稍下リテ推古天皇八年（紀一二六〇年）「爰新羅任那二國王遣使

、、奉表之日、天上有神、地有天皇、」同十五年（紀一二六七年）法隆寺金堂ノ藥師像ノ光背ノ銘ニ「池邊大宮治天下天皇」トアリ又翌十六年九月「唐（實ハ隋）客裴世淸罷歸、爰天皇聘唐帝（實ハ隋ノ煬帝）、其辭曰、東天皇敬白西皇帝」（日本書紀）トアルハ（推古天皇十五年始メテ小野妹子ヲ隋ニ遣シタルトキノ國書ハ隋書東夷傳ニ「日出處天子致書日沒處天子無恙」トアリ然ルニ善隣國寶記ニ引ケル經籍後傳記ニハ「日出處天皇致書日沒處天子」トアルニヨリ我國書ニハ「天皇」トアリシヲ隋書ニハ「天子」ト書キ改メシナラントノ説ヲナスモノアリ）之レ所謂聘唐（實ハ隋）國書ニシテ「天皇」ナル御稱呼ハ此ノ頃ヨリ漸ク特殊ノ場合ニ公式ニ用ヒ始メラレシモノト認ムベキナリ

三、其以後大寶元年以前ニ於ケル御稱呼ニ付二三ノ例ヲ擧グレバ日本書紀ニ孝德天皇大化元年（紀一三〇五年）七月ノ條ニ「詔於高麗使曰、明神御宇日本天皇詔旨、、」又詔於

百濟使曰明神御宇日本天皇詔旨、、」又二年二月ノ條ニ「天皇幸宮東門、使蘇我右大臣詔曰明神御宇日本倭（倭ノ字別說ニハ無キガ正シトイフ）根子天皇詔於集侍卿等、」又元年（紀一三一〇年）ノ條ニ「我日本國譽田天皇之世、白鳥樔宮」又續日本紀（桓武天皇延曆十三年（紀一四五四年）成ル）ニ「天之眞宗豐祖父天皇（文武天皇）紀八月（紀一三五七年）庚辰詔曰現御神止大八島國所知天皇大命良麻詔、、」等アリ

以上ノ時代ニアリテハ「天皇」ナル御稱呼ノミ用ヒラレ「皇帝」ト稱セラレタル例無キガ如シ

三、文武天皇大寶元年（紀一三六一年）八月大寶律令成リシガ後十七年ヲ經テ元正天皇ノ養老二年（紀一三七八年）修正セラレタリ之レ即チ養老律令ニシテ大寶律令ト稱シテ世ニ行ハルルモノハ即チ此ノ養老律令ナルガ其ノ儀制令ニ於テ「天子祭祀所稱　天皇詔書所稱　皇帝華夷所稱　陛下上表所稱」ト定メラレタリ

四　大寶元年以降藤原時代迄ノ間ニ於ケル御稱呼ニ付各種文獻ヲ見ルニ

「古事記序」ニ「臣安萬侶言、、、伏惟皇帝陛下元明」

「續日本紀」ニ「慶雲二年（一三六五年）十月）丁亥、金儒吉等還蕃、賜其王勅書曰、天皇敬問新羅王」　「（神龜三年（一三八六年）六月）天皇臨軒、」　「（天平勝寶四年（一四一二年）六月）因奏曰、新羅國王言日本照臨天皇朝廷」　「（天平勝寶八歲（一四一六年）十二月）勅遣皇太子、、於東大寺、、講梵網經、講師六十二人、其詞曰、皇帝敬白、、」　「（天平寶字元年（一四一七年）十一月）勅皇帝皇太后、如日月之照臨、竝治萬國、、」　「（天平寶字二年（一四一八年）八月）高野天皇禪位於皇太子、、是日百官及僧綱、詣朝堂上表、、、其百官表曰、、伏惟皇帝陛下、、、伏乞奉稱上臺寶字稱德孝謙皇帝」又「策稱勝寶感神聖武皇帝、」又「號曰寶字稱德孝謙皇帝、」　「（寶龜十一年（一四四〇年）正月）

REEL No. A-0584
0242
アジア歴史資料センター

天皇御大極殿、、、新羅使仍奏曰新羅國王言、、、依頼聖朝世々天皇恩化、、、」「（同年二月）新羅使還蕃、賜璽書曰、天皇敬問新羅國王、」

「續日本後紀」（淸和天皇貞觀十年（一五二八年）成ル）ニ「（一天長十年（一四九三年）二月）皇帝於淳和院、讓位于皇太子、、、、（三月）天皇卽位於大極殿、」

「類聚國史」（宇多天皇寛平四年（一五四九年）成ル）ニ「（延曆十五年（一四五六年）四月）渤海國遣使獻方物、其王啓曰、哀緖已具別啓、伏惟天皇陛下、、」「（同年）仍賜其王璽書曰、天皇敬問渤海國王、」「（延曆十六年（一四五七年）二月）撰續日本紀、至是而成、上表曰、、伏惟天皇陛下、、」「（弘仁十四年（一四八三年）四月）皇帝卽位、」

「三代實錄」（醍醐天皇延喜八年（一五六八年）成ル）ニ「（元慶八年（一五四四年）二月）奉天子神璽寶鏡等、今皇帝光孝東二條

REEL No. A-0584
0243
アジア歴史資料センター

宮一、」

「延喜式」（醍醐天皇延長五年（一五八七年）成ル）ノ慰勞詔書式ニ「天皇敬問云々大蕃國云、天皇敬問、小蕃國云、天皇問、」

「朝野群載」（鳥羽天皇永久四年（一七七六年）成ル）ノ尊星王供告文ニ「維康和二年（堀河天皇、一七六〇年）、、南瞻部州大日本國皇帝諱、堀河謹敬白擁護衆生慈悲奇特尊星王大士、、、」等アリ卽チ右ノ時代ニ於テハ「天皇」、「皇帝」ナル御稱呼ハ混用セラレタルヲ見ル

但シ以上ノ文獻ニ現ハレタル御稱呼ニ付テハ國史後ヨリ稱スル所ノモノモ之レ有ルベク必ズシモ時ニ當リテノ御稱呼トノミ斷ズベカラザルハ勿論ナリトス

REEL No. A-0584
0244
アジア歴史資料センター